

WCA大会 運用方針

SCJ事業年度 第2期

2021年8月 – 2022年7月末まで

2022年1月9日

WCA Regional Delegate

SCJ代表理事

大村周平

一般社団法人

スピードキュービングジャパン



1.WCAとは

- WCAのミッション、精神、目標
- WCAのビジョンと戦略
- WCA地域団体

2.WCA大会運用方針

1. 実行委員会, WCA, SCJ の切り分け
2. 企画進行の流れ
3. WCA大会に関わる人々

3.運用方針の策定背景

1. 現状分析と今後のビジョン
2. SCJの理念

日本国内のWCA大会運用を考える前に、
1章ではWCAの現状をまずご理解いただきます。

1.WCAとは

- WCAのミッション、精神、目標
- WCAのビジョンと戦略
- WCA地域団体

2. WCA大会運用方針

1. 実行委員会, WCA, SCJの切り分け
2. 企画進行の流れ
3. WCA大会に関わる人々

3. 運用方針の策定背景

1. 現状分析と今後のビジョン
2. SCJの理念

1章のまとめ

- WCAが目指すのは、WCA大会を通じて世界中の人々が良好な関係を築く社会を作ることです。世界記録の認定などはその手段であり、目的ではありません。
- 2004年に誕生したWCAの制度設計の根幹は昨今の世界的な競技人口増加を想定しきれておらず、随所で構造的な問題が起きています。
- WCAも自身の問題を認識し、例えばこのような解決方針を打ち出しています。
 - 各国ごとに地域団体を設定し、その地域の文化に適したかたちでWCA大会を運用させます。
 - WCAや地域団体の法人化によって財政基盤を整えます。

世界キューブ協会 (WCA) は、一部をひねることで操作するような機械的パズル (回転パズル) の大会を統制しています。

このようなパズルで最も有名なものは、ハンガリーのルービック教授によって発明されたルービックキューブです。



WCAのミッション、精神、目標

WCA のミッション

我々の使命は、
より多くの国でより多くの大会を開催し、
公平・公正な環境で多くの方とより楽しむことです。

WCA の精神

我々の精神は、
世界中の人々がともに友好的に楽しみ、互いに助け合い、
またスポーツマンシップに則って振る舞うことです。

WCA の目標

WCA大会を通して、世界中の若者に
コミュニティを通じたメンバーシップおよびリーダーシップを
発揮できる成長の機会を創出します。
パズルイベントの楽しさを多くの人に伝えていき、
我々のコミュニティ全体をより強固にします。

WCAのビジョン

現状の課題認識

1. 組織化されたコミュニケーション不足から、WCAを支える諸業務を効率的に運用できていない
2. WCAコミュニティ規模の成長スピードにWCAスタッフ育成が追いついておらず、個々の負荷が高い。スタッフの数は不足しており、また離職率も高い
3. 世界各国の文化の違いや言語の壁などに起因して、国や地域ごとにWCA品質基準の不均衡がある
4. 上記をはじめとする課題は以前から認識されており、様々な解決策が提案されてきたが、その実装に必要なボランティアの人手が足りない
5. これら4つに加えて、COVID-19による世界的な大会開催の中断がさらに問題解決を難しくしている

短期ビジョン

上記の課題解決に向けた各種ポリシーの策定と実装が機能しているため、COVID-19が収束さえすれば、この先数年は成長を続けていけるでしょう。

中長期ビジョン

WCAの成長は鈍化しはじめ、WCAが**国際組織たり得る財政基盤を確保**することがさらなる発展の鍵になります。

([WCA Vision and Strategy](#) より抜粋)

WCAが発表した5つの戦略のうち、
パートナーシップの項目で
SCJなど各国の地域団体との協業を重視すると記載があります。

WCA Vision and Strategy

Reviewed September 2020

1. People（人々）

2. Partnership（パートナーシップ）

SCJなど各国の**Regional Organization（地域団体）**を
WCAメンバーに加えて協業することが重要になると言及
また、WCAのNPO法人化によって
スポンサーからの財政的支援を受け取る基盤を整え、
物品の販売などによる収益確保も目指している

3. Quality（品質）

4. Technology（テクノロジー）

5. Safety（安全）



WCA 地域団体の要件

1. 該当地域で WCA 公式大会を**積極的に運営・支援**する

原文：To **actively organize or support** WCA Competitions in the region of the organization

- Organize (運営 = 地域団体自身がWCA大会を運営する)
- Support (支援 = 地域団体自身ではなく、第三者によるWCA大会運営を支援する)

これら2つは“or”で結ばれているため、運営と支援のどちらか一方だけでも要件を満たします。
WCAはそれぞれの国や地域ごとに適した運用の裁量を地域団体に委ねていて、SCJでは後者「支援」に注目してWCA大会を運用していく方針をとっています。

第2章ではこの運用方針の詳細を、続く第3章ではその背景を説明します。

2. 所属する地域における WCA 大陸別大会実行委員会からの協力要請に応える
3. 定款および動議に記載された WCA の目的を尊重し、これを遂行する
4. WCA 大会規則を遵守する
5. WCA スタッフの決定を受け入れ、遵守する
6. 現在の定款および活動規約の写しを電子ファイル形式で WCA に保管する

1章のまとめ

- WCAが目指すのは、WCA大会を通じて世界中の人々が良好な関係を築く社会を作ることです。世界記録の認定などはその手段であり、目的ではありません。
- 2004年に誕生したWCAの制度設計の根幹は昨今の世界的な競技人口増加を想定しきれておらず、随所で構造的な問題が起きています。
- WCAも自身の問題を認識し、例えばこのような解決方針を打ち出しています。
 - 各国ごとに地域団体を設定し、その地域の文化に適したかたちでWCA大会を運用させます。
 - WCAや地域団体の法人化によって財政基盤を整えます。

1. WCAとは

- ・ WCAのミッション、精神、目標
- ・ WCAのビジョンと戦略
- ・ WCA地域団体

2.WCA大会運用方針

1. 実行委員会, WCA, SCJ の切り分け

2. 企画進行の流れ

3. WCA大会に関わる人々

3. 運用方針の策定背景

1. 現状分析と今後のビジョン
2. SCJの理念

**2章では、WCAの現状を踏まえ、
日本における運用方針をご説明します。**

2章のまとめ

2章では、SCJの定めるWCA大会運用方針を説明します。

- WCA大会の企画運営には 実行委員会, WCA, SCJの3者がいて、それぞれ異なる役割をもちます。
- 企画運営の主体となる実行委員会には、目の前の大会企画を遂行する実務能力に加えて中長期的な視点に基づく持続性の展望を求めます。
- これを読むみなさんは、WCA大会に関わるそれぞれの立場の特性を理解し、自分がどの場所に身を置くかを考えてみてください。

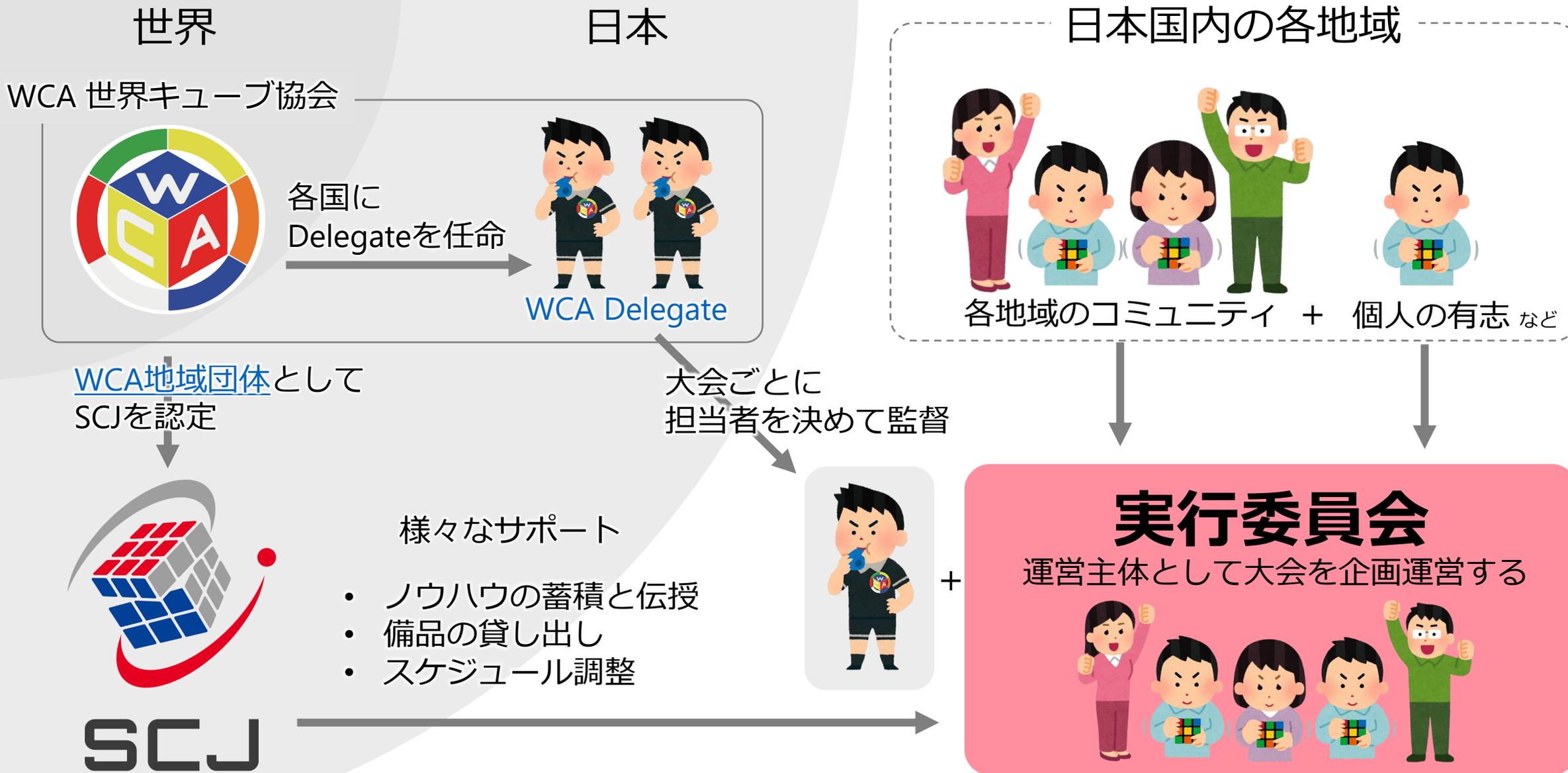
2.1 実行委員会, WCA, SCJの切り分け

- **実行委員会**がWCA大会の運営主体を務め、
- **WCA Delegate**が企画内容を監督し、
- **SCJ**は実行委員会とWCA Delegateをサポートする

SCJ設立以前、大会運営の要件はその所掌を区別せず
WCA Delegateなど特定の個人がほとんど全てを抱えていましたが、
これを**実行委員会, WCA Delegate, SCJ**の3者に分割して所掌を明確化しました。

3者はそれぞれ役割や適性が異なります。
限りある人的リソースを適切に割り振り、
互いの所掌を認識しながら無理なく活躍してもらうことが目的です。

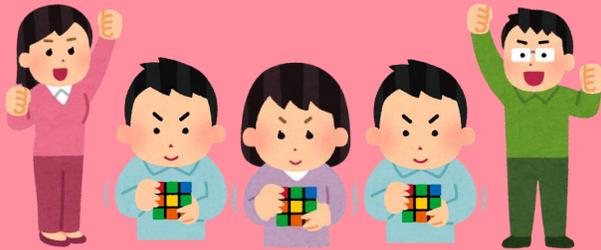
WCA - SCJ - 実行委員会の関係



実行委員会は、
WCA大会の運営主体として企画全般を遂行します。

実行委員会の所掌

実行委員会



- 企画運営とその実行すべて
- 予算管理
一般的に数十万円前後の予算規模となります。
参加費収入を得るまで一時的に立替える余裕が必要です。
- スケジュール管理
企画から終了まで3-4ヶ月間のスケジュールを引き、
計画的に実行していきます。
- リスク管理・トラブル時の責任能力
十分な責任能力に値する社会経験とコンプライアンスを
実行委員会として有する必要があります。
- 他企画との連携・大会終了後のビジョン
継続的なイベント開催を見据えて
個々の大会を位置づける必要があります。



WCA Delegateは、
WCAを代表して以下のような項目を担当します。

企画内容がWCA基準に沿うように確認し指導する

- [WCA Competition Requirement Policy](#)の遵守
- [WCA Competition Safety Policy](#)の遵守
- [WCA大会規則](#)の遵守

Delegateの権限が必要な作業

- 参加者の登録名や誕生日などの個人情報扱う
- 大会申請時、企画を[WCAT](#)に申請する
- 大会終了後、結果を[WRT](#)に報告する
- 大会終了後、レポートを書いて世界中のDelegateに共有する
- これらすべてのコミュニケーションを英語で行う

SCJは、
個々のWCA大会において以下のような項目で
実行委員会をサポートします。

イベント開催のサポート



- 複数の企画間のスケジュール調整
- 競技用タイマーなど、備品の貸し出し
- 企画運営ノウハウの蓄積と伝授
 - 過去の企画レポートの提供
 - 企画の相談窓口、コンサルティング
- ツール提供
 - SCJページ上における大会申込み、事前決済システム
 - 競技グループ分け、記録用紙印刷用Excelマクロ

2.2 企画進行の流れ

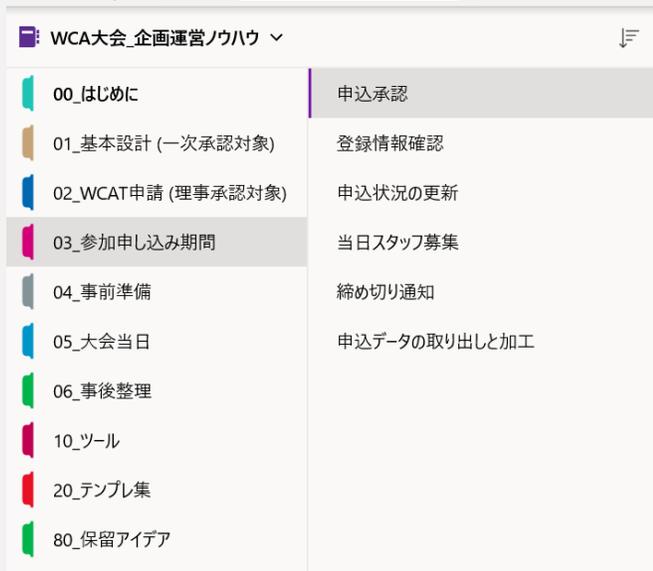
WCA大会を開催したい、と思ったら
まずは[相談窓口](mailto:info@speedcubing.or.jp)にメールでお問い合わせください。

info@speedcubing.or.jp

その後、大会企画の項目を
[“WCA大会企画 起案申請フォーム”](#)からお送りいただき
SCJ担当者と内容を議論していきます。

希望者には、大会企画運営ノウハウをまとめた各種資料を提供いたします。お問い合わせください。

OneNote 運営知見の文書化



Planner タスク管理テンプレート



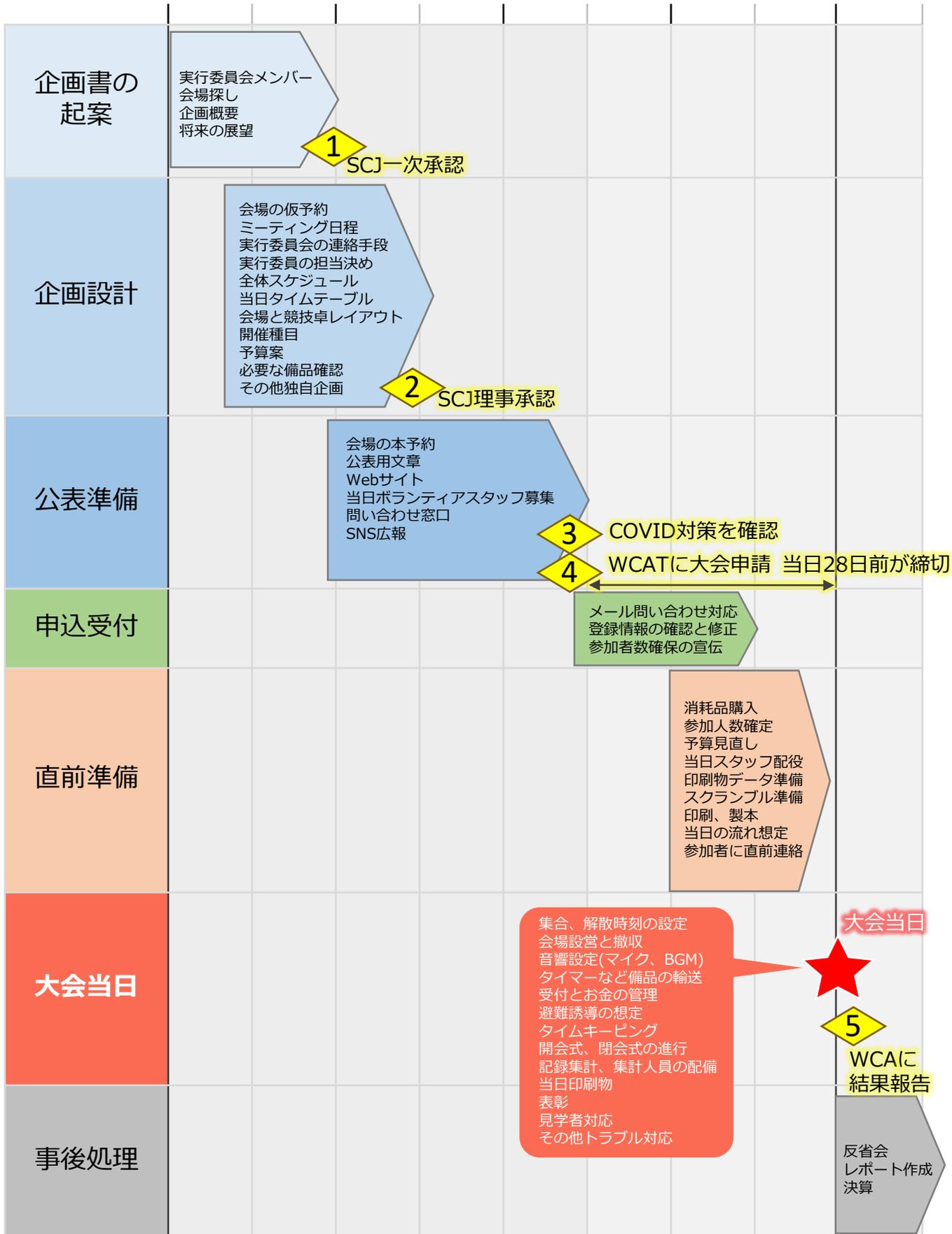
WCAレポート (英語) SCJレポート(日本語)

反省点を記録し、
他国のDelegateや
実行委員へと共有

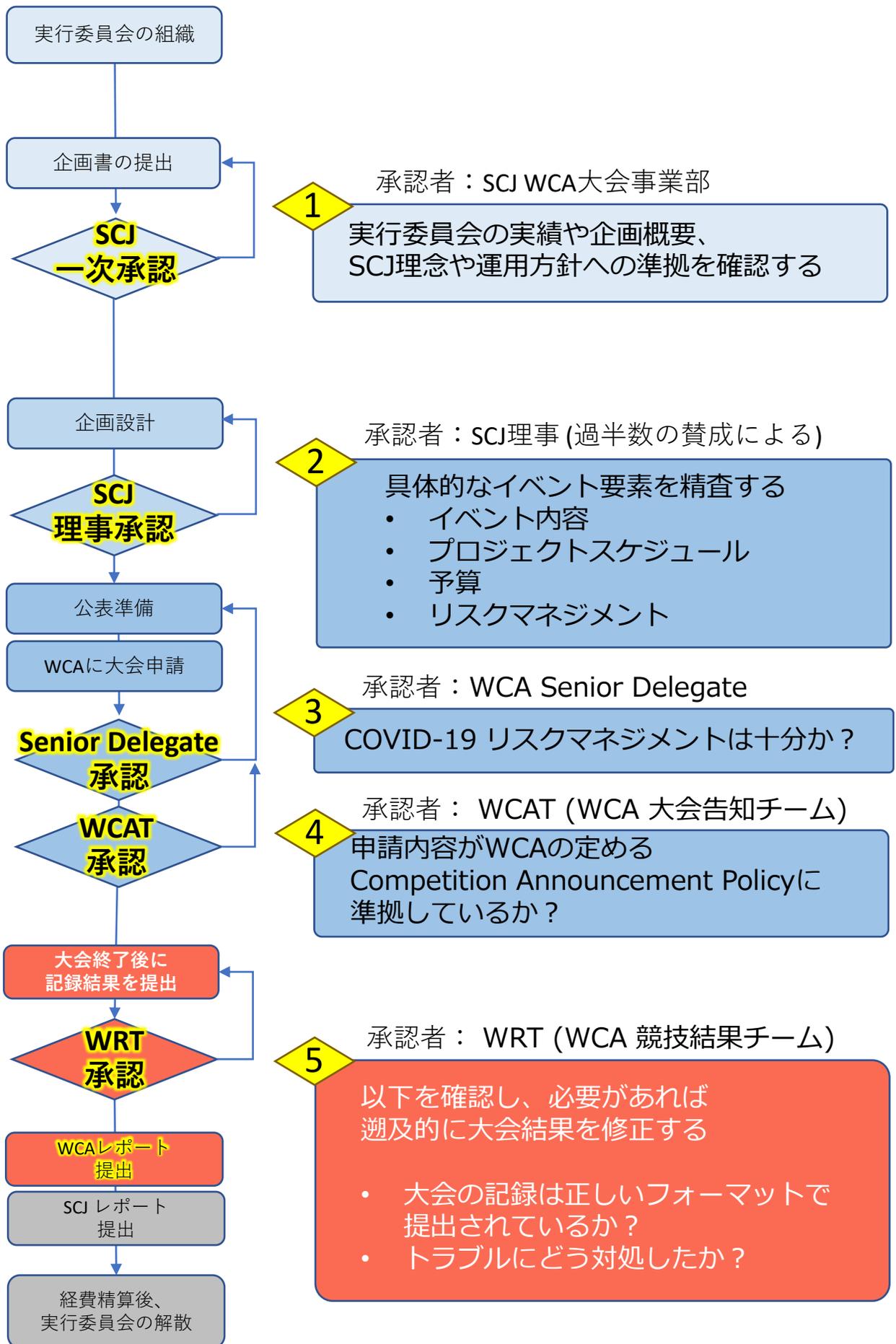


WCA大会 プロジェクトスケジュール例

-4ヶ月 -3ヶ月 -2ヶ月 -1ヶ月 **大会当日**



WCA大会 承認フロー



一次承認のチェックポイント例

実行委員会の 企画運営実績は十分か？	<p>一般的なイベント興行と同じく、WCA大会の運営を務めるには社会規範の遵守、適切な予算管理、リスク管理などの汎用的要素が必要です。</p> <p>経験が浅い場合は実行委員会のメンバー構成を再考するか、WCA大会にこだわらず実現難易度の低いシンプルな企画からはじめて経験を積んでいただきます。</p>
企画の継続性はあるか？	
メンバー間のノウハウ継承が考慮されているか？	日頃から相互にノウハウを共有し、特定の人物に依存しすぎないように実行委員会のキャパシティを増強しながらの運営を心がけてください。
収支は企画単体で黒字か？ 他の企画と相殺可能か？	同様の実行委員会による別の企画と併せて相殺可能ならば一定額の赤字が許容できるため、予算組みのリスクヘッジ基準が下がります。
活動場所は安定しているか？	施設の早期抽選枠への参加要件となる地元自治体への団体登録など、安定的に活動場所を確保する体制が整っているかを確認します。
この大会終了後の ビジョンを持っているか？	たとえ単発の大会として成立しても、継続性の視点が欠けていけばいずれは頓挫し、関係者に“燃え尽き症候群”を残してしまうのが過去のアンチパターンです。
WCA Delegateは 近隣地域に存在するか？	Delegate派遣費用（交通費や宿泊費など）は大会予算から拠出するため、遠方から呼び寄せる場合は参加費増額につながります。さらに、担当Delegateの都合次第では早朝や夜間の参加ができないため、当日の開始/終了時刻が制限されます。このように、当該地域でのDelegateの有無は企画全般に大きな影響を与えます。

選手権/記録会の違いがよくわからない	<p>SCJ事業年度第1期でのWCA選手権/記録会という区分設定を撤回しました。現在は特に区別せず一律にWCA大会と呼称します。</p>
ラウンド数や種目数が複数ある大会を開催したい	<p>可能です。 ラウンド数や種目を制限するSCJ事業年度第1期での方針を撤回しました。 ただし、企画実行力の観点から、まず予算や当日タイムテーブルに十分余裕を持った企画構成を実行委員会に経験していただきます。次回以降の企画では、会場面積、予算、当日の開催時間などのバランスを考慮した上でラウンド数や開催種目を設定してください。</p>
3x3x3 キューブ以外の種目だけのマニアックな大会を開催したい	<p>可能です。 「3x3x3キューブを必ず開催」というSCJ事業年度第1期での方針を撤回しました。 ただし、継続性の観点から、まずは3x3x3キューブを含めた基本的な種目設定を実行委員会に経験していただくことを原則とします。その後、次回以降の企画において継続的な複数の大会開催計画のうち一部に趣向を凝らす分にはまったく構いません。</p>
参加費を安くしたい	<p>総合的な予算案が健全であれば構いません。しかし過去の事例では、必要経費を参加人数で割ると最低でも2,000-3,000円程度になることが多いようです。参加費を安くすること自体を目的化せず、企画全体のバランスをとりながら予算を設計してください。 大会という価値に対して適切な対価を払う文化を多くの人が認めることが実行委員会の継続性やモチベーションを保ち、ひいてはSCJ理念「スピードキュービングの健全な普及と発展」につながると考えています。 また、独自のスポンサー獲得など参加費以外からの収入源も設定可能です。</p>

<p>日本大会のような大規模大会はSCJが主体となって企画運営するのか？</p>	<p>SCJが掲げる運用体制は実行委員会, WCA Delegate, SCJ の3者を切り分けるものです。大会の規模に関わらず「SCJが主体となる」という考え方はしません。</p> <p>大規模大会では、様々な立場の関係者を巻き込んだコミュニケーションや多額の予算を適切に扱う資本が必要です。こういった大会では、SCJに限らない何らかの組織を構成員に含めて実行委員会を構築することで、実行委員会全体として規模に見合ったイベント遂行能力を担保していくことになる想定しています。主体はあくまで実行委員会です。</p> <p>また、このときでも現場担当者レベルの実行力としてWCA大会を愛するみなさんの力を結集する必要があることは大会規模に関係なく変わりません。</p> <p>引き続きのご協力をお願い申し上げます。</p>
<p>今後の日本大会はどうなるのか？</p>	<p>2019年まで毎年開催してきた日本大会の今後は現在議論中で、現時点では変わらぬ継続をお約束できるわけではありません。</p> <p>近年は満足に大会を開催できていないため人材育成やノウハウ継承が滞っており、大規模イベントの開催はその中止時のリスクが大きいため特に慎重になる必要があります。</p> <p>また、複数日に及ぶ連日のイベント開催は運営負荷が高く、コロナ禍以前からその継続性に疑問が挙がっていました。再開にあたっては、その時点での大会運営リソースを考慮し、コロナ後の新たな社会に沿ったかたちでのコンセプト再設計が必要となるでしょう。</p>

2.3 WCA大会に関わる人々

WCA大会に関わっているのは、大会を直接運営する実行委員会, WCA Delegate, SCJだけではありません。例えば、WCA Delegateが自身の監督する大会を競技参加者としても楽しむなど、個人がいくつかの役割を兼任していることも珍しくありません。



SCJなどの
WCA地域団体



競技参加者



実行委員会



WCAスタッフ



WCA Delegate

この他にも様々な
立場がありえる

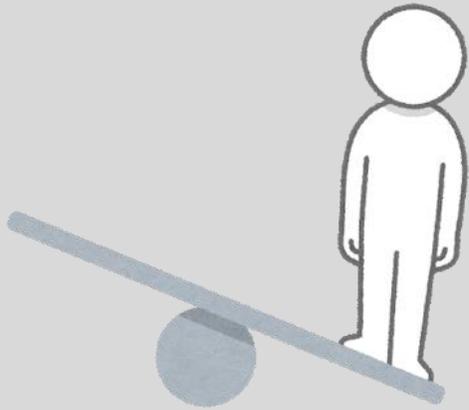
競技参加者もコミュニティの一部

[WCA Motion](#) によれば、一度でもWCA大会に参加した人は“Registered Speedcuber”（登録選手 / 登録スピードキューバー）と呼ばれ、WCA大会規則における「競技者」の役割として定義されると同時にWCA定款とWCA動議の上では投票権のないWCAメンバーとして扱われます。また、大会規則に加えてWCAの精神に則ってふるまわなければいけない、とも規定されています。

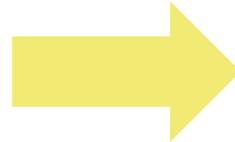
小難しい話ですが、つまりは

ひとたびWCA大会に参加すれば、
あなたもWCAコミュニティの一員なのです。

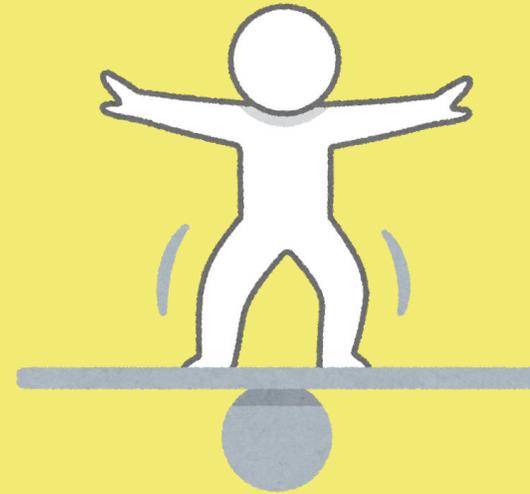
大会にたくさん参加したい！
でも実行委員は忙しそう。
競技に集中できないのは嫌だから、
関わるのはやめておこう



新たな
価値観の発見



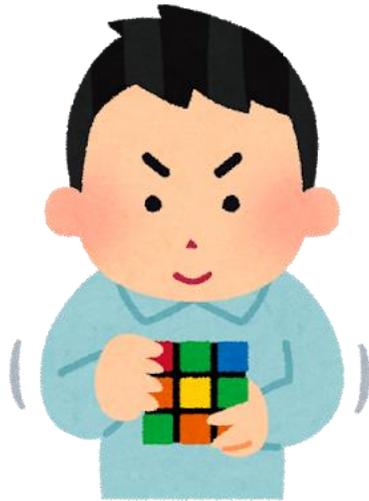
競技参加者としてだけでなく、
それを支える様々な
立場ごとの楽しみ方がある



多くの人がこう考えると、
大会そのものを維持できず
コミュニティ全体が損をしてしまう

**大会需給バランスのとれた
コミュニティ全体としての安定点
ギブアンドテイクの文化**

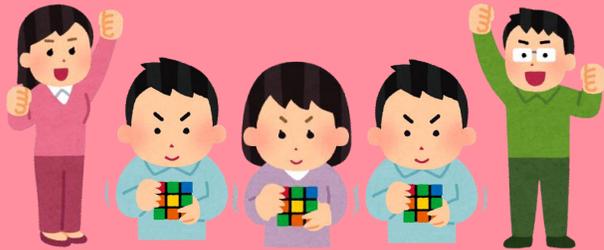
競技参加者はもっとも一般的な立場で、
誰しもがここから始まります。



- 当日参加のみで大会を楽しめる
- WCA大会規則で定められた大会当日のジャッジやスクランブラへの協力を除き、個々の責任や作業量はほとんどない
- 実行委員会から依頼されれば、大会当日の軽作業ボランティアとして関わるチャンスもある
- WCA大会の開催地域や日程、そのイベント内容が自身の嗜好に沿うかどうかなどはまったくコントロールできない

多くの人にとって、
実行委員会への参加が身近な次の段階になるでしょう。

実行委員会



- WCA大会企画の起点となる唯一の立場から主催者として個々のWCA大会運営に直接貢献できる
- 企画の細部を作り込むことができる
- 実行委員メンバーの趣向にそったイベント内容設定も可能
- 大会参加需要が偏重している環境では、多くの人から感謝される立場となり、やりがいがある

- WCAやSCJの定めた大方針を変えることは出来ない
- 主催するWCA大会に自身も競技参加する場合、当日の慌ただしさから自身の競技への集中度合いが下がる



WCA Delegateもよく見られるキャリアパスです。

- 個々のWCA大会運営に直接貢献できる
- WCAチーム/委員会の意思決定過程に意見を述べる機会がある
- Full Delegate以上の役職は、WCAの重要な意思決定に対する投票権を持つ
- 日常的に世界中のスタッフと関わるため、国際コミュニケーションや語学力のスキルアップにつながる
- 実際の活動は資料作成やレポーティングなど、裏方の事務作業が中心
- 実行委員を監督する立場のため、まずは自らの企画運営スキルが求められる
- WCAからの業務連絡理解や大会結果のレポーティングなどのためにReading, Writingを中心とした英語力が求められる。
(機械翻訳アプリなどを補助的に活用するのはかまわない)

特にWCA Delegateは日本で不足しており、早急な増員が必要です。
WCA Trainee Delegateの募集要項を[ホームページ](#)で公開しています。
ご興味があればご相談ください。

日本国内で個々のWCA大会に参加するだけでなく、WCAそのもののスタッフとして国際的に参加する選択肢もあります。



- WCAの方針策定の推進力となり、競技参加者をはじめとするWCAメンバーや各国の地域団体、その他スタッフが世界中で活躍するための仕組みづくりに直接関与できる
- 日常的に世界中のスタッフと関わるため、国際コミュニケーションや語学力のスキルアップにつながる
- 個々のWCA大会運営と直接の関係はない
- スタッフ間の通話会議も発生するため、Speaking, Listening 力を合わせた総合的な英語力が求められる
- 欧米との時差から電話会議が日本時間深夜になることが多い

WCAスタッフの業務範囲が広すぎるように感じるなら、日本に的を絞ったSCJ社員として参加するのも良いでしょう。



- WCAから認定された地域団体の一員として、日本の内情に沿ったWCA大会運用方針を決められる
 - WCA本体に意見を発信する機会があるため、WCAの意思決定過程に間接的に関わることができる
 - WCA大会以外の事業と組み合わせたスピードキュービング普及と発展の相乗効果を狙える
 - 現在はスタートアップ期のため、個々に裁量をもって制度設計の議論をリードし実装する機会が多い
-
- 現行の運用方針では個々のWCA大会運営を支援するのみで、WCA大会開催の直接の推進力からは一歩引いた立場となる
 - 自発的な姿勢が求められ、指示待ちだと楽しみづらい

2章のまとめ

2章では、SCJの定めるWCA大会運用方針を説明しました。

- WCA大会の企画運営には 実行委員会, WCA, SCJの3者がいて、それぞれ異なる役割をもちます。
- 企画運営の主体となる実行委員会には、目の前の大会企画を遂行する実務能力に加えて中長期的な視点に基づく持続性の展望を求めます。
- これを読むみなさんは、WCA大会に関わるそれぞれの立場の特性を理解し、自分がどの場所に身を置くかを考えてみてください。

1. WCAとは

- WCAのミッション、精神、目標
- WCAのビジョンと戦略
- WCA地域団体

2. WCA大会運用方針

1. 実行委員会, WCA, SCJの切り分け
2. 企画進行の流れ
3. WCA大会に関わる人々

3.運用方針の策定背景

1.現状分析と今後のビジョン

2.SCJの理念

ここまでお伝えした運用方針の背景を
ご説明します。

3章のまとめ

3章では、2章でお伝えしたWCA大会運用方針の背景を説明します。

- いま、日本のWCA大会は大ピンチ。
このままだと絶滅してしまうかもしれない危機的状況にあります。
- 従来抱えていた問題点を分析した結果、
WCA大会を維持し今後も発展させるには、
異なる性質を持つ別事業も併せた包括的な解決策が必要だとわかりました。
- SCJは設立時理念の基に
短期と中長期の2つのタイムスパンでWCA大会のビジョンを描き、
WCA大会運用方針を定めました。

3.1. 現状認識と今後のビジョン

現在の日本において、**WCA大会の供給能力を持つ人材は大会参加を希望する需要に対して非常に不足しています。**

その人たちも、いつ継続が困難になってもおかしくありません。

つまり、人的リソースを

目先の大会開催のためだけに消費するのではなく、

新たな世代へと発展的なノウハウ継承を伴う大会運営が必要です。

これを早期に実装できなければ、現状維持はおろか

WCA大会文化そのものが日本国内で絶滅してしまうリスクがあります。

これからどう解決する？

どう解決する？

スピードキュービングの楽しさが世間に広まり、需要が供給を超えてしまった

普及自体は喜ばしいこと。
今までWCA大会が担ってきた要素を分解し、WCA大会以外でも満足できる人々は別の事業に分散してWCA大会への一極集中を避ける

競技人口増加につれてより厳格なWCA大会の品質確保体制が要求される

もはや個人ですべてを担当することはできない。
WCA, SCJ, 実行委員会の所掌を切り分けて適切に分業する

従来の運営中心人物が歳を重ねるにつれてプライベートが忙しくなり大会運営に割く余裕が減った

スピードキュービング以外の団体を見ると、統括組織や個々のイベントの運営主体は仕事の繁忙期や子育てが一段落した中年世代で賄われていることが多い。
スピードキュービング発展の歴史からして既存コミュニティにまだこの世代人口は少なく、新たな人材を開拓する必要がある

大会運営ノウハウ継承が適切に行われなかったため、実務を知っている人が希少。

属人化した知見は一気に失われるリスクがある

目先の大会供給に加えて、中長期的な目線で地道な人材育成を続ける。
運営ノウハウを形式知化して広く共有する。

コミュニティ、SCJ大会など新たな事業

WCA大会から出発した現状分析の結果、WCA大会以外の別事業との連携が必要になるとわかった。

WCA大会運用方針の策定(第2章の内容)

短期ビジョン – WCA大会の絶滅を防ぐ

諸般の事情から、

これまでスピードキュービングのデファクトスタンダードだったWCA大会は従来の延長線上で運用することができないどころか、日本国内での開催絶滅の危機に瀕してさえいます。この状況をできるだけ早く脱するため、短期的には以下2つの方針を掲げます。

1. 運営リソースの早期拡充のため、参加者体験向上よりも運営人材のOJT機会としての要素を重視する
2. 万が一WCA大会開催が途切れてしまっても、将来に復活あるいは別のかたちで継承できるよう既存ノウハウを形式知化し、組織的に日本語で保存し共有する

中長期ビジョン – 多様な価値観の元で持続的なWCA大会需給バランスを整える

競技力の高い年代が未成年者を中心に分布するスピードキュービングの競技特性上、大会企画運営の担い手たり得る大人世代が主体的に参加するモチベーションを高める施策なくして持続的なWCA大会の未来を描いていくことは出来ないでしょう。

WCA大会に限らずスピードキュービングに取り組む多様な価値観を認め、それぞれが連携しながら相乗効果をもって日本全体のスピードキュービング文化を活性化する土壌の元でSCJの事業のひとつとしてWCA大会を運用していきます。

COVID-19による世界的な混乱は、先に分析した本質的な問題点とは別のところでWCA大会運用方針に基づく我々の活動を制限し、その実装を遅らせる点で大きな障壁だと捉えています。しかしながら現在は耐え忍ぶ以外にありません。

いずれ迎えるポストコロナ社会において迅速にWCA大会を運用していけるよう、まずは健康を第一にお過ごしください。

3.2 SCJの理念

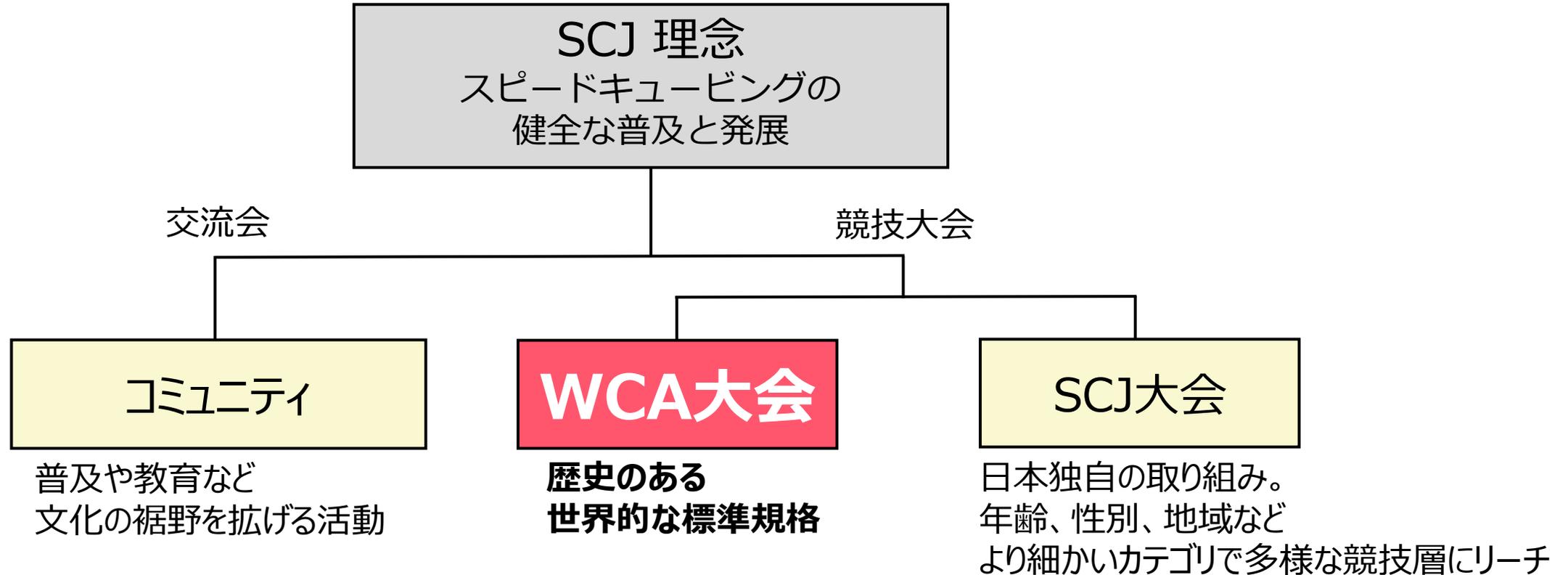
SCJ理念「スピードキュービングの**健全な普及と発展**」には、業界全体が**持続可能なかたち**でありたいという意図があります。

SCJは、この理念実現の手段のひとつとしてWCA大会を運用していきます。

また、1章でご紹介したように、WCA自体もCOVID-19に伴う生活様式の移行や競技人口の拡大などの環境変化に適応するため、常に将来像を見据えた議論を続けています。

私達のおかれた環境を冷静に見極め、スピードキュービングが総合的、持続的に発展していけるようWCA大会を運用してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

WCA大会は、SCJ理念を叶えるために行う事業の一つです。



3章のまとめ

3章では、2章でお伝えしたWCA大会運用方針の背景を説明しました。

- いま、日本のWCA大会は大ピンチ。
このままだと絶滅してしまうかもしれない危機的状況にあります。
- 従来抱えていた問題点を分析した結果、
WCA大会を維持し今後も発展させるには、
異なる性質を持つ別事業も併せた包括的な解決策が必要だとわかりました。
- SCJは設立時理念の基に
短期と中長期の2つのタイムスパンでWCA大会のビジョンを描き、
WCA大会運用方針を定めました。

さいごに：みなさんへのお願い

本資料でご説明したWCA大会運用方針は、これまでの歴史を踏まえて今後のスピードキュービングがさらに持続的な発展を続けていけるようにSCJが描いた未来予想図のひとつです。

今のままでは単なる下書きに過ぎず、これから地図を手に実際に進路を切り開いていく作業こそが未来を作っていきます。すべてが思い通りに進むわけもなく、途中で方向転換が必要なこともあるでしょう。また、人によっては異なる目的地を目指す人もいるでしょう。

大切なのは、それぞれのやることを明確にして、目指すところに近づく行動を取り続けることだと思います。

少なくとも、我々の描いたWCA大会進路はSCJや特定の人間の活動だけで叶えられるものではなく、様々な視点や立場からの思いの総力を結集する必要があります。

この運用方針に賛同していただける方は、ぜひお声がけください。共にスピードキュービングを楽しんでいきましょう。

2022年1月

WCA Regional Delegate
SCJ 代表理事

大村周平

一般社団法人
スピードキュービングジャパン

